

事件から数ヶ月のちの大晦日、刑務所で鬼洗は自殺、手記が見つかったとの報が4人に届いた。
最後に書かれた文章をここに記す。

“

絶望し続けて何ヶ月経ったろうか。
たくさんの罪に加担させられたが
いんちょうを殺したのは自分ではない。
にくい、憎い、憎い、
あの4人も院長も。
なぜ自分はここにいるのだろう。
ただ脅されただけなのに。
ただあの日あの場所にいただけなのに。
ちがう結末は無かったのか…

おなじゆめをずっとみる。

許されて、全てから解放される夢。でも、もう、
さめた時の絶望感に耐えられない。
なんの情けもかけられないこんな世界で
生きていくなんてまっぴらだ。

”

すぐに釈放されるだろうという犯人の思惑叶わず、動機が重視され逮捕。
絶望し自死を選んだ鬼洗の引力のように、その後4人も次々と死亡。
雨は永遠に止むことはない。

あめかんむり 大晦日の雨

—end—

produced by kanata-W